

みずほマーケット・トピック(2025年7月11日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

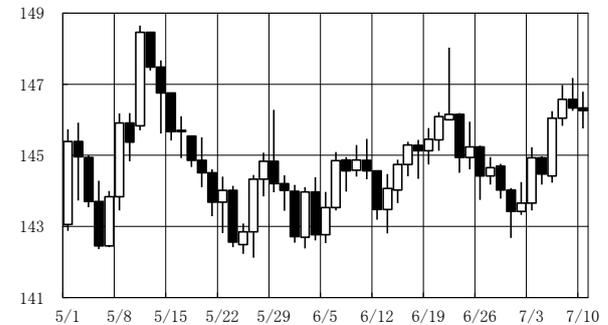
※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

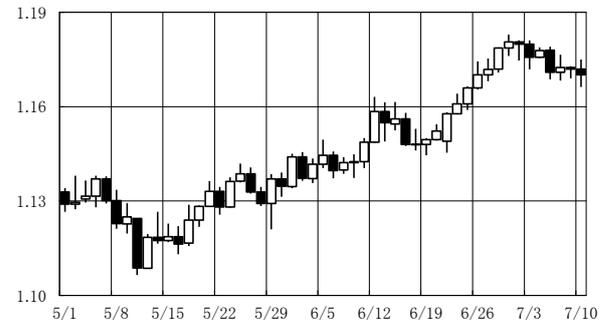
- 今週のドル/円は週半ばにかけてじり高も、その後は上値重く推移した。週初7日、144.49円でオープンしたドル/円は、米国によるBRICS同調国に対する関税措置発表を受けてドル高が進み、145円台へ乗せた。海外時間は、米金利の大幅上昇や米政権による貿易相手国への新関税率通知がドル買いを後押し、146円台に続伸した。8日、ドル/円は146円を挟み方向感なく推移。海外時間は、米金利上昇を受け一時147円手前に上昇した。9日、ドル/円は一時週高値となる147.19円まで続伸後、147円付近に水準を切り下げた。海外時間は、米金利の大幅低下が重しになり、146円台前半に下落した。公表されたFOMC議事要旨(6月会合分)はサプライズの無い内容で、特段材料視されなかった。10日、ドル/円はドル安相場が続いて146円台を割り込む場面も見られたものの、底堅い米金利に連れる格好で146円台を回復。海外時間は、米新規失業保険申請件数の良好な結果を支えに一時146円台後半まで値を伸ばす場面もあったが、その後は米金利低下を受け反落し、結局146円台前半に値を下げて引けた。本日のドル/円は、引き続き146円台半ばで取引されている。
- 今週のユーロ/ドルはじりじりと値を下げ、断続的に1.17を割り込んだ。週初7日、1.1781でオープンしたユーロ/ドルは米関税政策や米金利上昇を受けたドル買いが重しとなり、1.17を割り込む場面が見られた。8日、ユーロ/ドルは独金利上昇と共に1.17台後半に上昇したが、その後は米金利上昇が重しとなり1.17を割り込んだ。もともと引けにかけては、1.17台を回復した。9日、ユーロ/ドルは新規材料に欠ける中で、1.17台前半を中心とした狭い範囲での値動きに留まった。10日、ユーロ/ドルはドル全面安を受け1.17台半ばへ上昇も、良好な米労働指標や米金利上昇が重しとなり、一時週安値となる1.1663に反落した。引けにかけては米金利反落が好感され、1.17台を回復した。本日のユーロ/ドルは、近々EU向けの関税書簡がトランプ米大統領から届くとの報道が嫌気され、週安値付近に値を下げて取引されている。

| | | 前週末 | 今 週 | | | |
|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | | 7/4(Fri) | 7/7(Mon) | 7/8(Tue) | 7/9(Wed) | 7/10(Thu) |
| ドル/円 | 東京9:00 | 144.72 | 144.49 | 145.88 | 146.86 | 146.06 |
| | High | 144.94 | 146.24 | 146.97 | 147.19 | 146.78 |
| | Low | 143.48 | 144.24 | 145.85 | 146.25 | 145.76 |
| | NY 17:00 | 144.61 | 146.08 | 146.60 | 146.33 | 146.23 |
| ユーロ/ドル | 東京9:00 | 1.1769 | 1.1781 | 1.1737 | 1.1724 | 1.1738 |
| | High | 1.1788 | 1.1789 | 1.1765 | 1.1782 | 1.1749 |
| | Low | 1.1754 | 1.1687 | 1.1683 | 1.1690 | 1.1663 |
| | NY 17:00 | 1.1788 | 1.1709 | 1.1724 | 1.1723 | 1.1701 |
| ユーロ/円 | 東京9:00 | 170.35 | 170.17 | 171.29 | 172.19 | 171.49 |
| | High | 170.36 | 171.29 | 172.01 | 172.25 | 172.18 |
| | Low | 169.34 | 169.99 | 171.23 | 171.31 | 170.96 |
| | NY 17:00 | 169.92 | 171.00 | 171.83 | 171.52 | 171.00 |
| 日経平均株価 | 39,810.88 | 39,587.68 | 39,688.81 | 39,821.28 | 39,646.36 | |
| TOPIX | 2,827.95 | 2,811.72 | 2,816.54 | 2,828.16 | 2,812.34 | |
| NYダウ工業株30種平均 | - | 44,406.36 | 44,240.76 | 44,458.30 | 44,650.64 | |
| NASDAQ | - | 20,412.52 | 20,418.46 | 20,611.34 | 20,630.66 | |
| 日本10年債 | 1.43% | 1.45% | 1.49% | 1.50% | 1.49% | |
| 米国10年債 | - | 4.38% | 4.40% | 4.33% | 4.35% | |
| 原油価格(WTI) | - | 67.93 | 68.33 | 68.38 | 66.57 | |
| 金(NY) | - | 3,342.80 | 3,316.90 | 3,321.00 | 3,325.70 | |

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、15日(火)に6月消費者物価指数(CPI)が公表予定だ。5月は+2.4%(前年比、以下同様)と市場予想に一致も、4月の+2.3%から伸びが加速。食料品とエネルギー価格を除いたコアは+2.8%と4月から横ばいで推移し、市場予想の+2.9%を下回った。内訳を確認すると、非コア項目では、食品・エネルギーの双方がヘッドラインの押し上げに寄与。コア項目では、コア財価格が+0.28%と前月に続きプラス寄与になった反面、コアサービス価格は+3.56%と42か月ぶりの低い伸びを記録。ただし、FRBが重視する居住費除くコアサービス価格は、ブルームバーグの試算によれば+2.86%と7か月ぶりに伸びが反発に転じている。なお、6月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、総合ベースで+2.6%、コアベースで+2.9%と見込んでいる。
- 本邦では、20日(日)に参議院選挙の投開票を控える。合計248議席のうち、改選の124議席と欠員補充の1議席を合わせた125議席が争われる。与党である自民党・公明党は非改選議席を75保有しているため、125議席のうち50を確保すれば過半数を維持することになる。今回の争点は「物価高対策」一色であり、与党は現金給付を、野党は消費税減税を主張する構図になっている。この点、与党が過半数割れの敗北となれば、現政権退陣の憶測が飛び交うことが想定され、「次の総理探し」を市場が始める中で、財政拡張・および金融緩和路線期待を受けた円売りで反応する可能性がある。一方、立憲民主党中心の野党連合への期待が高まれば、金融引き締めへの期待感から逆に円高で反応する可能性もある。

| | 本 邦 | 海 外 |
|----------|---------------------------------------|--|
| 7月11日(金) | _____ | ・独6月消費者物価指数(確報) ・独5月経常収支 |
| 14日(月) | ・5月コア機械受注 ・5月鉱工業生産(確報) ・5月設備稼働率 | _____ |
| 15日(火) | _____ | ・独7月ZEW景気期待指数 ・ユーロ圏5月鉱工業生産 ・米6月消費者物価指数 |
| 16日(水) | _____ | ・ユーロ圏5月貿易収支 ・米6月生産者物価指数 ・米6月鉱工業生産 ・米ベージュブック公表 |
| 17日(木) | ・6月貿易収支 | ・ユーロ圏6月消費者物価指数(確報) ・米6月小売売上高 |
| 18日(金) | ・6月消費者物価指数 | ・独6月生産者物価指数 ・ユーロ圏5月ECB経常収支 ・米7月ミシガン大学消費者マインド(速報) |

【当面の主要行事日程(2025年7月～)】

- 参議院選挙(7月20日投開票)
- ECB政策理事会(7月24日、9月11日、10月30日)
- FOMC(7月29～30日、9月16～17日、10月28～29日)
- 日銀金融政策決定会合(7月30～31日、9月18～19日、10月29～30日)

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

| 発行年月日 | 過去6か月のタイトル |
|------------|---|
| 2025年7月10日 | 追い詰められているのは米国も一緒～TACOの前提～ |
| 2025年7月9日 | 関税の緩衝材となる円安～日銀の判断は～ |
| 2025年7月8日 | 膨らむ家計の投資意欲とその今後 |
| 2025年7月7日 | 物価高対策を巡る不可思議～王道は利上げ～ |
| 2025年7月4日 | 週末版 |
| 2025年7月3日 | 今、考えるユーロ/ドル相場の高値目途 |
| 2025年7月2日 | インフレ適応が続く家計、諦観強まる若年世代 |
| 2025年7月1日 | 25年上期レビュー～「欧州の強さ」と「円の弱さ」～ |
| 2025年6月27日 | 週末版 |
| 2025年6月26日 | NATO首脳会議～動き出した欧州の戦略的自律～ |
| 2025年6月25日 | 「米国離れ」は本当なのか～4月に起きていたこと～ |
| 2025年6月24日 | 衰えないスイスフラン～欧州資産へのローテーション～ |
| 2025年6月23日 | 目立ってきた日本の高インフレと中東リスクへの不安 |
| 2025年6月20日 | 週末版(FOMCを終えて～ドル/円相場への含意～) |
| 2025年6月18日 | 貫かれなかった「べき」論～優しさの代償は？～ |
| 2025年6月16日 | 中東事変とドル/円相場への影響～円売り優勢～ |
| 2025年6月13日 | 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年5月分) 週末版(変わるドル凋落相場の背景～米国主導ではなく他国主導に～) |
| 2025年6月12日 | 日銀会合プレビュー～「もう関与しない」を示す時～ |
| 2025年6月11日 | 円の基礎的需給環境について～暴落後の挙動～ |
| 2025年6月10日 | 新しい対内直投目標の読み方～「骨太の方針」～ |
| 2025年6月9日 | 為替政策報告書を受けて～年金運用への注文？～ |
| 2025年6月6日 | 週末版(ECB政策理事会を終えて～利下げ局面の終わり？～) |
| 2025年6月4日 | ユーロ圏5月消費者物価指数(HICP)の読み方 |
| 2025年6月3日 | ECB政策理事会プレビュー～利下げは当然視できる？～ |
| 2025年6月2日 | 欧州再軍備と欧州版ハミルトン・モーメント |
| 2025年5月29日 | IEEPA違法判決はゲームチェンジャーになるか？ |
| 2025年5月28日 | 34年ぶりの首位陥落～24年末対外純資産について～ |
| 2025年5月26日 | 懸念通りの米EU交渉～日本との違い～ |
| 2025年5月23日 | 週末版(ユーロ相場の現状について～堅調に潜むリスク～) |
| 2025年5月22日 | 円金利上昇と為替相場についての所感 |
| 2025年5月21日 | 赤澤ベッセント会談3.0～争点化する自動車～ |
| 2025年5月19日 | 米国価格下げの影響～急性的ではなく慢性的～ |
| 2025年5月16日 | 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年4月分) 週末版 |
| 2025年5月15日 | 懲りないドル安ナラティブ～3度目の光景～ |
| 2025年5月14日 | 円の基礎的需給環境について～25年1～3月期～ |
| 2025年5月13日 | 経産省「デジタル経済レポート」を受けて～その②～ |
| 2025年5月12日 | 経産省「デジタル経済レポート」を受けて～その①～ |
| 2025年5月9日 | 週末版(米英合意を受けて～むしろ心配になる米EU交渉～) |
| 2025年5月8日 | FOMCを終えて～デュアルマンドートの拮抗～ |
| 2025年5月7日 | 逆「アジア通貨危機」観測の考え方 |
| 2025年5月2日 | 週末版(日銀会合を終えて～「何もわからず、何も決められず」の状況～) |
| 2025年4月28日 | EUの対米戦略について～「デジタル赤字への課税」も～ |
| 2025年4月25日 | 週末版 |
| 2025年4月24日 | 不確実性極まるIMF報告～WEOとGFSR～ |
| 2025年4月23日 | 最強通貨の地位が続くスイスフランからの教訓 |
| 2025年4月22日 | 加藤・ベッセント会談プレビュー～為替は争点なのか？ |
| 2025年4月18日 | 週末版(ECB政策理事会を終えて～6月スタッフ見通しの重要性を強調～) |
| 2025年4月17日 | マールアラウゴ合意の読み方～40年前の再現は不可能～ |
| 2025年4月15日 | 日本の構造変化vs. 国際金融体制の再編 |
| 2025年4月14日 | 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年3月分) 日米通商交渉プレビュー～論点の検討～ |
| 2025年4月11日 | 週末版(リスクシナリオの高まり～不穏なベッセント発言～) |
| 2025年4月9日 | トランプ大統領は「カーブ効果」に耐えられるのか |
| 2025年4月8日 | 残された望みは「緊急協調利下げ」か？ |
| 2025年4月7日 | インバウンド需要はピークアウトするか？ |
| 2025年4月4日 | 週末版(正論を掻き消す時代の振り子～デタラメ過ぎる関税根拠と為替政策報告書～) |
| 2025年4月3日 | 厳しい対米貿易の展望～輸出は減り、輸入は増える～ |
| 2025年4月2日 | トランプ時代の「為替政策報告書」の意味を考える |
| 2025年4月1日 | 1～3月期の為替市場外観～割を食うユーロ圏～ |
| 2025年3月28日 | 週末版(世界に広がるスタグフレーションシナリオ～25%自動車関税の行方～) |
| 2025年3月25日 | インフレに適應する家計部門～「貯蓄」から「逃避」～ |
| 2025年3月24日 | インフレか、デフレか～FOMCを終えて～ |
| 2025年3月21日 | 週末版(日銀会合を終えて～「史上最大の円ロング」、2つの先行き～) |
| 2025年3月18日 | 「暖かい水」が流れ込むユーロ圏の近況について |
| 2025年3月17日 | 日銀会合プレビュー～現状維持が基本に～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年2月分) |
| 2025年3月14日 | 週末版(史上最大だった対外直接投資～厚くなる日本の「仮面」～) |
| 2025年3月12日 | 過去最大の円ロングに勝算はあるのか？ |
| 2025年3月11日 | テーマ化する「欧州の再軍備」～EUの場合～ |
| 2025年3月10日 | テーマ化する「欧州の再軍備」～ドイツの場合～ |
| 2025年3月7日 | 週末版(ECB政策理事会を終えて～拡張財政路線の足音～) |
| 2025年3月5日 | ロ・ウ開戦後3年間の円相場を振り返る～後編～ |
| 2025年3月4日 | トランプ発言を受けて～「円安はずるい」の一点張り～ |
| 2025年3月3日 | ロ・ウ開戦後3年間の円相場を振り返る～前編～ |
| 2025年2月28日 | 週末版 |
| 2025年2月27日 | 欧米デカップリングに対するECBの見解 |
| 2025年2月25日 | ドイツ総選挙レビュー～「壁の内側」では何も変わらず～ |
| 2025年2月21日 | 週末版(不安漂う米国の消費者マインド～追加関税の副作用～) |
| 2025年2月20日 | トランプ就任1か月、金利・為替はどう動いたか 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年1月分) |
| 2025年2月18日 | 円建て輸入物価で読む日銀の「次の一手」 |
| 2025年2月17日 | 本邦10～12月期GDPを受けて～鮮明になるインフレ税～ |
| 2025年2月14日 | 週末版(窮屈になりそうなECBの政策環境～追加関税とユーロ安～) |
| 2025年2月13日 | ドイツ総選挙の展望～重いメルケルの「負の遺産」～ |
| 2025年2月12日 | デジタルに規定されるサービス赤字10兆円時代の足音 |
| 2025年2月10日 | 為替需給から整理する日米首脳会談 |
| 2025年2月7日 | 週末版(円高の背景整理～その持続性を疑う～) |
| 2025年2月5日 | 関税相場と円相場～日米首脳会談を控えて～ |
| 2025年2月4日 | 「需給ギャップ」は利上げしない理由になるか？ |
| 2025年1月31日 | 週末版(ECB政策理事会を終えて～極めて大きくなる欧米格差～) |